

＜今年度の取組成果＞

- まちづくり団体「**株ナゴナダナバンク**」（名古屋市の円頓寺商店街再生の実績を持つ）の参入により、外部視点ならではの磨き上げるべきまちの魅力・機能を洗い出し。
- 地元まちづくり会社・地元事業者と密接に連携しながら社会実験に取り組み、信頼関係やまちづくりの機運醸成・ノウハウ向上。

所在地：岩手県陸前高田市

主な用途：民間主導による土地利活用
事業の検討

■ 位置図



1. 目的と背景

友好都市（名古屋市）と連携し、社会実験を活かしたまちなかの魅力の向上・官民連携の体制づくりの検討

- ・ 陸前高田市では、空き地バンクやまちづくり会社の設立等の取組により、造成地の活用を推進してきたが、官民連携による一層の中心市街地の魅力向上が必要。
- ・ 友好都市で実績のあるまちづくり団体「**株ナゴナダナバンク**」（名古屋市の円頓寺商店街再生の実績を持つ）と連携し、より一層のまちなかの魅力化・磨き上げにより効果的な土地利活用の連鎖と移住定住の促進を図る。



地区航空写真（国土地理院）



中心市街地エリア現況(2020.12.9 撮影)

2. 本取組のターニングポイント

- ① 友好都市（名古屋市）との交流をきっかけに、**株ナゴナダナバンク**の自主的な土地活用支援が提案され、それを陸前高田市で官民一体となって呼応したこと
- ② **株ナゴナダナバンク**が「高田まちなか会」や地元まちづくり会社「陸前高田ほんまる**株**」と積極的にコミュニケーションを図り、良好な連携体制が構築できたこと
- ③ **株ナゴナダナバンク**が自らプレーヤーとして社会実験を実施し、地元民間団体を巻き込んだこと

本取組を進める際に想定された課題

陸前高田市では中心市街地に未利用地が多く残っていることから、これまでに土地活用促進バンクの設置やまちづくり会社の設立による利活用促進に向けた基盤整備を行い、一定の成果は得られている。一方、土地利活用は民間事業者の意向に左右される面が大きく、より活発な土地利活用の促進に向け、官民連携による中心市街地の魅力向上が必要であった。

これらを解決するために友好都市で実績のあるまちづくり団体が参画し、社会実験を通じた地元事業者の連携協働やまちの魅力の磨き上げ、官民連携プラットフォームの基盤づくり等の課題解決に取り組んだ。

- ・ 土地利活用のための現地におけるノウハウの蓄積と活用推進
- ・ 魅力あるまちづくりのためのコンテンツ・仕組みのリビルディング及びそれを PR する手法
- ・ 土地活用を推進する体制の整理・地元団体との連携
- ・ 中長期的なテナント施設整備の見通し

今年度の取組項目

- I 民間主導による魅力的な土地利活用事業の検討
- II 社会実験を活用した友好都市の地元の連携協働の体制作り
- III まちなかテナント施設検討
- IV 魅力ある商店街づくりの検討

3. 取組経過や主な調整プロセス

6～9月 (株)ナゴノダナバンクによる現地視察とヒアリング調査

- ▶ 友好都市(名古屋市)との交流をきっかけに商店街再生の実績のあるまちづくり団体「(株)ナゴノダナバンク」が参入し、外部視点ならではのまちの魅力や機能の洗い出しのための調査を実施。
- ▶ (株)ナゴノダナバンクの現地調査や事業者ヒアリング調査により、地域に対する理解を得るとともに、多くの事業者や関係者との関係構築の基盤をつくることができた。

ターニングポイント①

友好都市(名古屋市)との交流をきっかけに、(株)ナゴノダナバンクの自主的な土地活用支援が提案され、それを陸前高田市で官民一体となって呼応したこと

10～11月 社会実験「カワラガワぷらっと」と「なごやごはん@たかた」の開催

- ▶ 川原川公園における「カワラガワぷらっと vol.1」(10/30-31)「カワラガワぷらっと vol.2」(11/13-14)、『なごやメシ』を検証する「なごやごはん@たかた」(11/13-22)の社会実験開催。
- ▶ 社会実験の活動を通じて、(株)ナゴノダナバンクと地元まちづくり会社、地元事業者との関係性を構築することができた。
※ p 3-3 図 1、p 3-4 写真 1 参照

ターニングポイント②

(株)ナゴノダナバンクが「高田まちなか会」や地元まちづくり会社「陸前高田ほんまる(株)」と積極的にコミュニケーションを図り、良好な連携体制が構築できたこと

12～2月 事業計画(案)の検討とプラットフォーム立ち上げの気運醸成

- ▶ 社会実験結果を踏まえた、事業計画(案)と、まちなか活性化のためのプラットフォーム立ち上げの機運が高まった。

主な関係者調整プロセスのポイント

- ▶ (株)ナゴノダナバンクが自らプレーヤーとして積極的に活動して、一緒に汗をかくことにより、地元団体の不信感を払拭するとともに、多くの事業者や関係者との良好な関係構築ができた。
- ▶ この社会実験が、実質的にまちなか会でのソフト的な連携による初の取組となり、この取組の効果を体験することで、まちなか活性化に向けたまちづくりへの機運が高めることができた。

ターニングポイント③

(株)ナゴノダナバンクが自らプレーヤーとして社会実験を実施し、地元民間団体を巻き込んだこと

■ 社会実験を生かしたまちなかの魅力向上・官民連携の推進体制

陸前高田市が主体となり、庁内関係課や名古屋市、(株)ナゴノダナバンク、地元団体と連携協働し実施

実施主体：

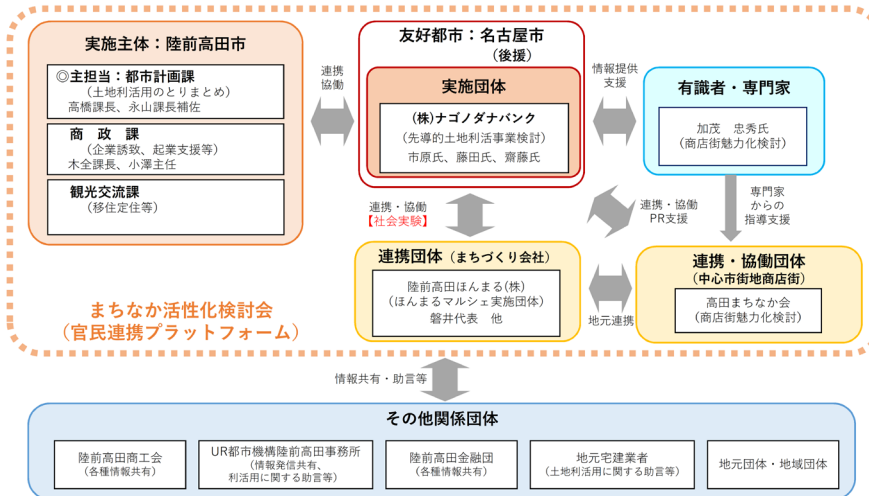
- ・ 陸前高田市
(都市計画課、商政課)

実施団体：

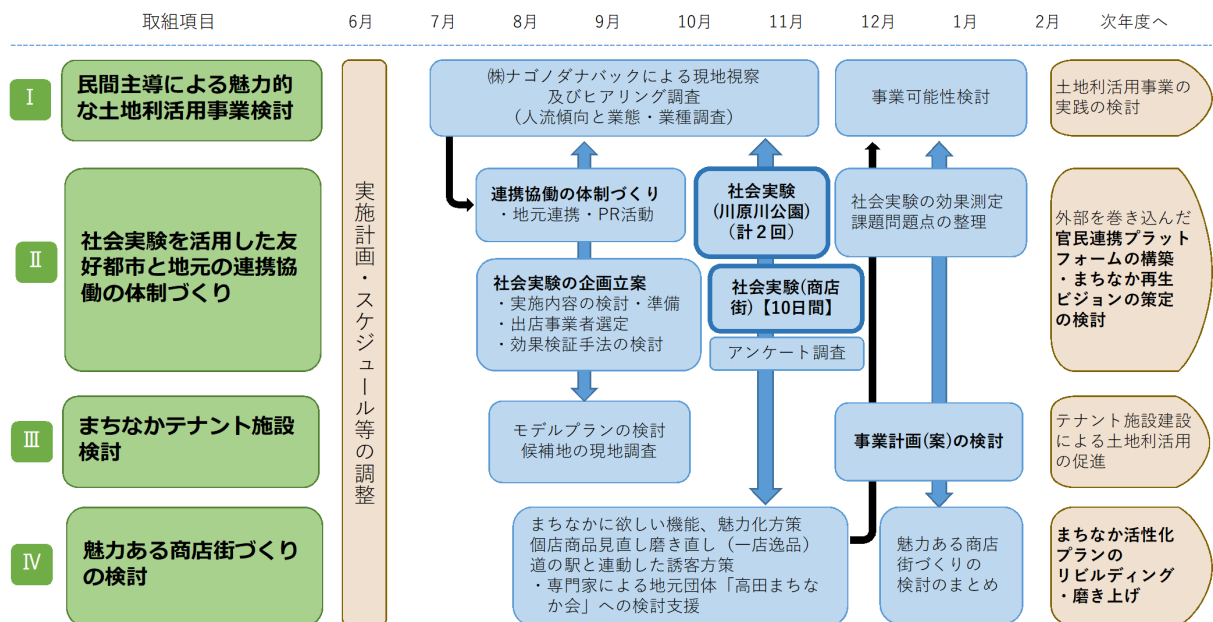
- ・ (株)ナゴノダナバンク

連携団体：

- ・ 陸前高田ほんまる(株)、
高田まちなか会



■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等



図1 イベント用チラシ

社会実験の取組（写真 1）



「カワラガワぷらっと」のウッドデッキ 子どもたちに人気のヤギ「サンゴ」 「鳴海有松絞り」体験ワークショップ



名古屋「味噌煮込みうどん屋」も出店 名古屋のお酒も販売 「なごやごはん@たかた」の目印



陸前高田×名古屋の交流・メニュー開発

新メニュー：鉄板ナポリタン/バーボンコークソース手羽先
※現在も販売しており、地元店舗によりレシピ発展中

4. 今年度の取組成果

成果 1「外部事業者と地元団体との信頼関係の構築」

- ▶ 外部事業者である(株)ナゴノダナバンクが、社会実験の取組を通じて、地元まちづくり会社「陸前高田ほんまる(株)」と地元事業者「高田まちなか会」と連携体制が構築できた。

成果 2「まちなか活性化のためのプラットフォーム立ち上げの機運醸成」

- ▶ 社会実験に多くの来訪者が訪れ、取組が新聞で報道されたことなどから、地元住民からの期待も含め、地元関係者のまちなか活性化のためのプラットフォーム立ち上げの機運醸成ができた。

成果 3「魅力あるまちづくりのための場とコンテンツの検証」

- ▶ 川原川・川原川公園での賑わいづくりという場の価値の検証ができた。
- ▶ 名古屋めしを陸前高田市の食材でアレンジした「なごやごはん」のコンテンツが有効であることが検証できた。
- ▶ アンケート結果から、名古屋市が友好都市と認識していた市民は約7割あり、震災復興を通じた名古屋市との交流による「名古屋」コンテンツの有効性が検証できた。



社会実験を通じた連携体制の構築



川原川・川原川公園での場の検証

5. 今後の方向性

土地利活用の実践検討

- ・ 外部事業者との交流促進や市外のプレーヤーの事業展開等を念頭に土地利活用の実践を検討。
- ・ 「名古屋」以外のコンテンツの検証やターゲットの検証等により、テナント施設の機能や誘致する事業者の業種等を検討する。

官民連携プラットフォームの構築・まちなか再生ビジョンの策定

- ・ 社会実験を通じて得た外部事業者を交えたまちなか活性化プランのリビルディング・磨き上げ、外部を巻き込んだ官民連携プラットフォームの構築・まちなか再生ビジョンの策定を検討。
- ・ (株)ナゴノダナバンクが実際に商店街再生を行った名古屋市の円頓寺商店街等を視察し、地元団体が商店街再生のノウハウを蓄積する機会を創出する。
- ・ I 市全体の方向性や議論する場を設ける。
- ・ II ターゲットや開催時期・時間を変更した社会実験の実施とそれを通じた連携の深化
- ・ III 名古屋市等で実際に商店街を再生した事例を視察しノウハウを蓄積する。

6. 取組主体・関係者の声

実施主体（陸前高田市）担当者の声

- ・ 社会実験は天候に恵まれ2回とも賑わっていたが、イベント時以外に小屋等を利用する人は少なかった。小屋など”モノ”ではなく、イベントという”しかけ”に人が集まった。イベントは労力もかかるため、人を集められる”しかけ”を続けることが持続可能性だと思う。
- ・ 新型コロナウイルスの影響と社会実験に時間をかけたため、テナント施設検討や用地の情報収集に十分な時間を確保できなかった。また、市側の関係者がナゴバンの実績を見る機会が持てなかったため、次年度は円頓寺商店街等を視察し、商店街再生のノウハウを学びたい。
- ・ まちなか会でナゴバンの事業も含めて、まちなかの魅力向上の検討をしており、まちなか会側からナゴバンとの関係を築きたいという話も出ており、議論する場を設けたい。

実施団体（株ナゴノダナバンク）の声

- ・ 「カワラガワぷらっと」では、子どもたちに芝滑り(ソリ)やハンモックが人気で、公園での遊び方の提案ができた。貸していただいたヒツジとヤギとも触れ合え、川原川沿いへの誘客も可能で、河川敷を利用した賑わいづくりも効果的と分かった。「なごやごはん」は、コンテンツの検証以上に地元の商店街と一緒に実施できたことで今後の取組につながると思う。



(株)ナゴノダナバンク代表の
市原正人氏(左)と藤田まや氏

- ・ 次年度の5～6月頃に事業計画を作成するため、事業費の算出やテナントの候補者の選定等を進めたい。支援してもらえる事業者や補助金等を探したい。

関係者の声

- ・ 【名古屋からの出店者】人手不足もあり、会場の設営や撤収作業を皆さんに手伝ってもらったが、その際に地元住民と交流できてすごく楽しかった。引き続き事業に関わりたい。
- ・ 【なごやごはん@たかた 地元参加店舗】期間が短かったので、せっかくならもっと長くてもよかった。／好評だったので、通常メニューにした。／名古屋メシを提供するのではなく、名古屋の味を陸前高田のお店にアレンジしてもらったことも良かった。

県担当者の声

- ・ 岩手県と愛知県は飛行機も飛んでいるが、文化に触れる機会は少なく「なごやごはん」は県内全般で通用するコンテンツになると感じた。岩手県は特に濃い味が好まれており、発酵文化には馴染みがあり今後成長するコンテンツだと思う。名古屋で実践してきたことを岩手県のまちづくりに活かしてもらえるのはすごく有難い。何らかの形で県も関与していきたい。